

構造が誘起するスピントロニクス 新物理現象

2025年9月9日(火)13:30～ ハイブリッド予定

物質のカイラリティやエッジ、周期性等の構造を積極的に使うことによるスピン偏極誘起や準粒子(フォノン・マグノン・プラズモンなど)生成が大きな関心を集めています。本シンポジウムでは構造誘起スピントロニクス現象についてご活躍されている研究者に講演いただき、最近の進捗と将来展望について議論します。

招待講演者

- 小野瀬佳文(東北大)
「らせん磁性体における磁気キラリティの制御と検出」
- 高橋陽太郎(東大)
「マルチフェロイック材料によるテラヘルツ光応答」
- 戸川欣彦(大公大)
「カイラル構造スピントロニクス」
- 加藤岳生(東大物性研)
「熱誘起カイラルフォノンおよびホッピング伝導によるカイラリティ誘起スピン選択性の理論」
- Jorge Puebla(京大)
「Hybridization of Spin Waves and Surface Acoustic Waves」
- 廣理英基(京大)
「高強度テラヘルツ磁場パルスによる高速スピン制御」
- 森竹勇斗(科学大)
「非エルミート光系における新しい光カイラル現象」
- 中田陽介(阪大)
「動的テラヘルツメタマテリアルの新潮流」